

産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立玉島商業高等学校
実践場面	「課題研究」における商品開発
実践日時（時期）	令和6年9月～令和7年1月
対象生徒（学年）	3年・課題研究（SDGs 講座）25名
連携の形態	☒ 包括連携協定（玉島商工会議所） ☐ その他（ ）
学びの分類	☒ 講演会講師・説明会 ☐ 技術指導 ☐ 企業訪問・インターンシップ ☒ 商品開発・共同研究 ☐ 最新技術・設備の見学 ☐ その他

実践の内容

【現状】

- ・本校に在籍する約4割の生徒は地元中学校出身であるが、港町玉島の魅力を発信できるだけの知識やスキルを身につけていない。通学するだけでは、地域の歴史・文化に触れ、地域資源の存在を知る機会に乏しい。
- ・課題研究（SDGs 講座）は、地域における諸課題を、「SDGs」と高校生の視点で改善・提案する講座であるが、備中玉島みなと朝市への出店・参加など、地域の方々と関わる機会や生徒の人数が限定的であった。

【実践内容】

- ・包括連携協定に基づき、玉島商工会議所との連携を模索していたところ、玉島地域の活性化に取り組む商工会議所内のプロジェクトチーム（“タマリバ”＝玉島リバイバルプロジェクト）と共同で地域課題に対しての活動・研究・提案をすすめていくこととなった。
- ・廃業した銭湯「みなと湯」を玉島市民が憩える“サードプレイス”として復活することを計画し、探究を重ねた。銭湯の脱衣所にあるロッカーが「板チョコに見える」との生徒の発言をきっかけに、玉島と昭和レトロを融合したチョコレートの商品開発（時をかけるチョコ）に取り組んだ。
- ・山陽学園大学地域マネジメント学部教授のつながりから製造提携先を開拓するとともに、パッケージデザインは地元印刷会社の協力を得た。また、玉島に関係の深い「北前船」をバックボーンとしてお茶文化が発展したことから、地元茶舗と提携して抹茶を配合するなど地域企業・団体との協力を礎に、完成することとなった。



実践による効果等

- ・商工会議所によるつながりをもとに、高校と大学の連携、地元企業や団体との交流など、活動の幅が広がり、産学連携の実践事例となった。
- ・学校だけでは指導することが難しい実践や活動についても、産業界の方々を介することで、取り組むことのできる事柄の幅が広がった。

※実践の様子が分かる写真等を適宜入れてください。（肖像権の確認等（特に企業側）は各校で行った上で提出してください。）